

# ふれあい

大代地区コミュニティ推進協議会

事務局；大代地区公民館 ☎364-8442

## 視察研修を終えて

コミュニティ推進部 小野 菊郎

平成十五年度コミュニティ推進部主催の視察研修を六月十七日三十四名の参加者のもと多賀城市内諸施設見学を実施いたしました。

①大代にある下水道仙塩処理場では、対象人口三十万人（多賀城市・仙台市塩竈市・七ヶ浜町・利府町）処理下水量十万吨／一日当を処理しております。（計画では、人口四十万人下水処理量二十五万吨／一日当）多賀城市の下水道普及率は、九十八・九％と高い実績でした。

微生物の働きを利用した（活性汚泥法）下水処理ですから、食油、ガソリン等有害物は微生物が死滅するため絶対に流さないでと要請されておりました。

②続いて上水道の新田浄水場へまいりました。五本の井戸（深度百メートル）から汲み上げて、市川配水池（多賀城市西部地区への配水）へ送水しておりました。

大代地区は、天の山配水池（釜房ダム、七ヶ宿ダムの水）から供給されております。

③キリンビール仙台工場では、製造工程を見学いたしました。ビールの試食（おかわり自由）が本命でした。ビールの三度注ぎを是非実行され、いつもおいしくビールをお飲みください。

あいさつは心のふれあい

出会った人と あいさつしましょう

④あやめ園は、祭り前の準備に係りの方々が手入れに余念がありませんでした。

白、紫等きれいに咲いております。あやめ祭りにお出かけください。

⑤田口洋らん園を最後に見学致しました。

来年も咲かせます様期待いたします。

又セントポリーアも大切に育て下さい。来年も、ご期待に添えますよう努力いたしますので、皆様のご参加お待ち申し上げます。

## 統一選挙を終えて

大代南 星 繁 子

四月は統一選挙の月で街は行き交う選挙で何時になく賑わった。世の中の気もこうであればいいのと思わざえない現実である。選挙になると決まっと思いつき事があります。それは、遠い昔里に居た頃の話で、おらが村で村長選挙が行われた。やっと婦人参権が施行され私にも投票用紙が配られた。どっちがいいのか全く判らない。

現職の村長と助役の一騎打ちで村長の方は東大法学部卒で面がまえも、どうぜうひげで威勢がいい一方の助役は貧相で高等小学校卒、ひげはあごひげ見るからに对象的。

父は、村長派で何ヶ月前から夜遅く迄手伝いに行っていた。選挙の当日棄権しようと思っていた私に「我が家は三票だ棄権しないで村長に入れろ」と威張

って家を出て行った。私は、そんなの選挙でないと思いつつ投票所の小学校に向かったら校門の前で投票者に深々と頭を下げる助役の姿が見えた。何だかあわれな感じがし、私の一票で東大卒がまけるわけではないと助役に投票したが、一票の差で村長が敗れ村中が大騒ぎになり、その後、村政は後退し村に見切をつけた後、村長は県政に出馬し議長も務め県政に貢献したときいて居る。結果的にはマイナスになった。

私の一票で、その責任を痛感し母に話したらそんな事、口がさけても云うではない、今後の参考したらそれでいいと云はれたその人達も、皆旅立ち誰も居ない今だから云える苦い体験である。

選挙になると私はいつも市から配布される公報を熟読し、候補者の主義主張を確認し投票する。勿論地元は大切に地域に代弁者が居ない事は困るので先生方にも頑張っていたかと思っております。残念ながら今回の選挙には私の最も心配している地域防災についての問題を主張した候補者はいなかった。工業地帯を背景にそれなりの危険を持つる当地区では、近い将来起きるとされている地震の対策はどうなっているのだろうか？老人・子供・障害者の救出等々地域ぐるみで真剣に考える問題だと思ふ。

## 大代地区子ども会

育成連合会総会を終えて

去る五月三十日（金）、大代地区公民館に於いて子ども会育成連合会総会が開かれ、十五年度事業計画等の承認を得ました。

子どもの健全育成を目指し、十五年度も十四年度同様、大代地区民の御指導と御協力を得ながら活動してまいります。

なお、役員改選が行われ次の皆様が役員になりました。

- 会長 菊田 茂（大代北）
- 副会長 渡辺 初雄（大代南）
- 浦田 勇一（大代東）
- 星 篤（大代西）
- 橋 祐之（大代中）

他、会計、各担当部長は今年担当地区の大代北より選出されます。

七月に入り間もなく夏休みです。今月は、キャンプが七月十九日（土）から二十日（日）の二日間予定されております。くわしくは案内状をご覧下さい。

## 大代防犯協会より

総会開催のお知らせ

日時 七月十一日（金）午後七時より  
場所 大代地区公民館二階会議室

総会終了後、（塩釜警察署・生活安全係長）の講話を予定しておりますので、多くの地域の皆様のご出席をお願い致します。

会長 伊藤 一郎

ご祝儀 お見舞いは 三千元を限度にし お返し物はしないようにお互い気を配りましょう

# シベリアの回想

「俘虜郵便」

大代南 後藤清一

昭和二十年から、二十一年にかけての冬は異常な寒気がシベリヤ全体を襲い全てを凍結させた。最初の犠牲者は日本人だった。防寒の服もなく靴もない。ひどいテントの中にぶちこまれていたのだからひとたまりもなかった。死者は途方もない数に上がった。そんな夢も希望のない暗澹とした生活が何十年かの時が過ぎたかの様だった。

だれもが祖国との交信は一切なく自分のそして家族との生死さえ解らず消息を伝える事はできなかった。日によって零下四十度〜五十度になる日もある。そんな中で我々朝の挨拶は決って今朝は何度だろう、上か下かそれが決まり文句だった。つまり三十度以下なら作業待期となり休息につながるからだ。ある年は十月も末だが地面も凍り始めていた。

我々は早期帰還を夢みて、みんな揃って元気で返ろうと互いに励ましあって耐えてきたのだ。だが全ての条件が最悪一年も経ぬうち多くの戦友を失ってしまった、特に酷かったのは民間人の抑留者であった。あの時その場でひっぱられ家畜同様貨車につめこまれ延々と歩かされ北へ北へと引っぱり廻されたのだ。民間人は我々より倍も年を喰っている。衣類靴なども悪かった。

全てシベリヤの厳寒にはそぐわないものしか身につけていなかった。中でも満州の奥地から連れてこられた開拓団の人々はひどかった。女の人達はソ連兵に強姦されない様に坊主頭になり、顔には墨を塗っていた。

敗戦と同時に開拓村を満人においたてられ、襲われ身ぐるみははぎとられたのである。こんな人達は僕達の何倍も辛く悲しい思いで死んで行ったはずだ。この人々は何の地域に、何処の墓地に埋められているのか、この人達の遺族は何処に墓参りしたらよいのか、土漫頭にしがみつき只泣けと云うのか――何十年かの時が過ぎた様な想いだ。そんな或る日収容所の日本人にとって画期的とも云へる朗報がもたらさられた。

六月に入って初めて祖国との葉書による便りが許可されたのである。ラール（収容所）の日本人たちの喜びは一入であった。許可が降りたその日は食堂に集められ一枚づつ往復はがきを渡された。はがきの表には「俘虜郵便」と赤いスタンプがおされている。

日本からの返信もこのはがきでしか受けないと説明された。皆が待ち望んでいた最初の便り、文面は全てカタカナ日付は入れない事、文中には生活状態は一切書かない事など厳しい制限の注意あり、この場ですぐ書く様にと筆記用具など用意されていた。

「俘虜郵便」と云うスタンプにこだわる者もいた。家族にそんな便りが届き、

近所の者に対して困るのではないかと云う心配からである。宿舎に帰ってゆつくり書けたらどんなに嬉しいだろうと誰もが思ったがそれは許されなかった。

ソ連は国際世論の手前一応人道的配慮を示したが文通によって情報ももらえない体制を敷いていたのだ。

## 俳句

大代西 松浦 富男

奥松島奇岩怪石藤の花

甲高き鳴き声哀し雉子走る

アカシヤの香に老の身華やげり

山刀伐は静寂の中春の蟬

山刀伐は新緑燃えて出羽の風

笠神地区 本郷 勝子

体中緑一色散歩道

ムスカリや滴あつめて濃紫

海風や波立つような藤の花

新緑や心に一面湖あり

山笑う茂吉の歌碑に夕映えし

## 短歌

大代南 本郷 貞子

この街を恋ひ止まざりし亡き母の

杜の都はいま若葉風

大代西 小倉 美紀子

新緑の並木通りの清々し

自ずと歩調も軽々となり

大代西 佐藤 あさよ

青竹に酒沸かし飲む湯の宿の

竹の子汁は里の味する

- 笠神地区 本郷 勝子
- ・岩燕飛礫となりて急降下
  - ・野仏に寄り添うように白根葵
  - ・一枚一片の花手の中に風の夕
  - ・若葉寒人影見えず鳴子峡
  - ・水と風と光浴び山笑う

## 消防団からのお知らせ

消防団第六分団団長 櫻田 栄松

長い間消防団奉仕活動に携わって頂きました退団者と、新団員を紹介致します。

平成十五年三月三十一日付

退団者

前副分団長 小野 栄昭さん

前班長 平山 新一さん

団員 三浦 直人さん

団員 大場 正さん

団員 福田 正道さん

団員 桜井 優さん

の六名皆さん長い間寝食を忘れてご活躍されました事に、感謝申し上げますとともに、団活動に今後とも御指導の程、宜しくお願い致します。

又四月一日付で入団されました方々は

茂泉 芳巳さん、伊藤 久喜さん

本郷 尚彦さん、遠藤 政行さん

伊藤 朋和さん、の五名です。

今後のご活躍を期待致します。

地域の皆様におかれましても、防災意識の高揚と御協力の程をお願い申し上げます。